

福島の 児童文学者19

山川惣治

戦後の荒廃した世相の中で、子供たちに絵物語で夢を与えた作家がいた。

名を山川惣治（やまかわ・そうじ）という。明治四十一年二月二十八日、郡山市駅前のお菓子屋の次男として生まれるが、店が倒産したため一家は上京、東京の千住で育つ。高等小学校卒業後製版所の工員となり、川端画学校の夜学に学び、後に日大芸術科に進んでいる。

【紙芝居製作所・そうじ映画社設立】

昭和七年、兄の惣重と共に紙芝居製作所を起し、数々の街頭紙芝居を製作、昭和初期の紙芝居ブームをつくる。昭和八年、紙芝居「少年タイガー」を発表する。昭和十三年には文部省主催日本紙芝居コンクールに「勇犬軍人号」を出品し一位に入選している。

そうじ映画社は、映画好きな惣治の思い入れの会社である。十四・五歳の頃から活動写真に熱中し、写真が変わる度に通っていたという「業平座」。

その時出会ったのが、エルモ・リンカーン主演の映画「ターザン」だという。パロイズの原作に最も忠実に作られたこの作品を見、その面白さに驚き、世の中にこんな胸躍る話があったのかと呆然としたという。その思いは、晩年スピルバーグの映画を見て、好きだといった感動と似ているかもしれない。この映画との出会いが、後の紙芝居・絵物語に大きく影響することになる。

【紙芝居より絵物語へ】

コンクール入選作品「勇犬軍人号」が、昭和十三年にキングレコードより紙芝居入りのレコードとして発表された。それがきっかけで「少年倶楽部」より依頼を受け、翌年より「宣撫の勇士」・「ノモンハン」の若鷲等の戦争絵物語を毎月連載することとなる。

戦後、密林冒険ものの紙芝居「少年王者」を制作。この作品は、長い間心の中で暖め筋をふくらませてきた「ターザン物語」だったが、GHQがターザンの名を使う事を許さず、日本人を主人公にしてできたという。幸いにこの紙芝居は子供たちに喜ばれ、昭和十二年の十二月には「少年王者」第一集（生いたち編）が本として出版され、以後歴史的ベストセラーとなる。昭和二十四年九月からは、「おもしろブック」にも連載され、子供たちに愛読される。その他にも、「銀星」「ノックア

ウトQ」「幽霊牧場」「少年ケニア」などの絵物語をつぎつぎ発表し、惣治は名実ともに昭和二十年代の絵物語ブームの中心的存在となった。これらの作品は、西部劇、実録スポーツもの、密林ジャングルものと、バラエティに富んだものとなっている。

『少年王者』（しょうねんおうじゃ）冒険絵物語。コンゴの奥地で、牧師の父牧村勇造と離別した少年真吾が、ジャングルの敵と戦いながら、たくましく成長する姿を描く。魔神ウーラ、豹の面を被った老婆、人食いライオン、湖の恐竜、怪人アメンホテップの登場など、怪奇的要素がたつぷりと盛り込まれているのも特徴。創作に当たっては、前出の「ターザン」を下地にしたという。

『フックアウトQ』（のつくあうときゅう）伝記絵物語。少年時代製版所で友人であった、後の天才ボクサー木村久五郎の伝記。大正から昭和にかけて、おのおのの夢を胸に抱きながら、製版の仕事に従事する少年たちを描いている。この中には山川自身も登場する。この作品は山川作品の中でも異色とされ、戦後絵物語の最高傑作だといわれている。

【惣治と子供】

惣治の作品には、「子供に楽しい夢を与えたい」との願いがこめられてい

る。惣治自身「ずっと子供のままでいたかった。大人になりたくなかった。」と、話していた。子供の夢と希望に満ちた心をずっと持ち続けていきたいとも。

惣治は子供のころ、歩きながら物語を作っていたという。自然の中で想像力を膨らませていたのも。郡山の母の実家近くの神社や阿武隈川の思い出もその一つかもしれない。

アフリカを舞台に多くの作品を描いた惣治であったが、その実アフリカに足を踏み入れたのは、驚く事に昭和十五年であった。それまでの作品は、アフリカ関係の資料と映画を基に描いており、「初めてアフリカを見て、自分の描いたアフリカと同じである事に安堵した。」と、ある雑誌に書いていた。惣治の想像力の凄さに驚かされる。

晩年にテレビ番組の取材で故郷郡山を訪れた折のビデオの中で、子供たちを見ている目がとてもやさしく、大好きな煙草を吸いながら、新作について話している姿が忘れられない。

平成四年十二月十八日没。享年八十四歳であった。

○参考文献

『日本児童文学者大事典』

『児童漫画研究』

『文化福島』

『旅』